

平成25年度事業報告書

学校法人 二松學舎

目 次

I	法人の概要	1
II	事業の概要	5
III	財務の概要	13
	監査報告書	19

I. 法人の概要

1. 沿革

二松学舎は、明治 10 年に先師中洲三島毅により「漢学塾二松学舎」として創設され、建学の精神「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」により東洋学の確立と新時代を担う国家有為の人材の育成を目指した。その後、昭和 3 年には旧制専門学校となり、国語・漢文の教員養成に注力し、「国漢の二松学舎」として東洋の精神文化を基盤とし、人間教育の実践に努めてきた。戦後復興期、昭和 24 年に新制大学に移行、文学部国文学科・中国文学科の単科大学として伝統を堅持し発展、さらに平成 3 年に国際政治経済学部を開設した。一方、昭和 23 年に二松学舎大学附属高等学校が、昭和 44 年に二松学舎大学附属沼南高等学校(現附属柏高等学校)が設置され、平成 23 年 4 月、附属沼南高等学校は附属柏高等学校に校名を変更し、新たに二松学舎大学附属柏中学校を開校した。平成 24 年 10 月に創立 135 周年を迎え、これを機に、二松学舎のあるべき将来像を定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」公表し、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を計画し、平成 25 年度より推進している。現在、設置する学校と学部・学科等の概要は以下のとおりである。

2. 所在地

学校法人二松学舎

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

(1) 二松学舎大学

九段キャンパス

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

柏キャンパス

277-8585 千葉県柏市大井2590番地

(2) 二松学舎大学附属高等学校

102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番32号

(3) 二松学舎大学附属柏高等学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

(4) 二松学舎大学附属柏中学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

3. 設置する学校・学部・学科等

(1) 二松学舎大学

大学院

文学研究科

国際政治経済学研究科

文学部

国文学科

中国文学科

国際政治経済学部

国際政治経済学科

(2) 二松学舎大学附属高等学校

(3) 二松学舎大学附属柏高等学校

(4) 二松学舎大学附属柏中学校

4. 入学定員・学生数等の状況

<大学院>

(単位:人)

研究科	専攻	博士前期課程(修士課程)			博士後期課程(博士課程)		
		入学定員	収容定員	学生数	入学定員	収容定員	学生数
文学研究科	国文学専攻	16	32	9	5	15	7
	中国学専攻	16	32	12	5	15	9
	計	32	64	21	10	30	16
国際政治経済学研究科	国際政治経済学専攻	10	20	3	—	—	—
合計		42	84	24	10	30	16

<学部>

(単位:人)

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
文学部	国文学科	260	1,040	1,288
	中国文学科	140	560	727
	計	400	1,600	2,015
国際政治経済学部	国際政治経済学科	200	800	934
合計		600	2,400	2,949

<中学校・高等学校>

(単位:人)

学校名	学科	入学定員	収容定員	生徒数
二松学舎大学附属高等学校	全日制普通科	300	900	682
二松学舎大学附属柏高等学校	全日制普通科	249	747	790
二松学舎大学附属柏中学校	全日制普通科	102	306	185
合計		651	1,953	1,657

(注)人数は平成25年5月1日現在の値を示す。

5. 役員等・教職員の概要

(1) 役員等・教職員数

- ①役員等 理事 11人 (うち、理事長1人、常任理事3人)
 監事 2人
 評議員 24人

②教職員

(単位:人)

教員	二松学舎大学	71
	二松学舎大学附属高等学校	37
	二松学舎大学附属柏高等学校	38
	二松学舎大学附属柏中学校	11
	計	157
職員	二松学舎大学	76
	二松学舎大学附属高等学校	5
	二松学舎大学附属柏高等学校	3
	二松学舎大学附属柏中学校	
	計	84

(注)人数は平成25年5月1日現在の値を示す。

表中の教員には非常勤教員を含まない。非常勤教員の人数は、二松学舎大学202人、二松学舎大学附属高等学校21人、二松学舎大学附属柏高等学校27人、二松学舎大学附属柏中学校1人である。

(2) 役員

役 職	氏 名
理 事 長	水 戸 英 則
常 任 理 事	野 田 恒 雄
常 任 理 事	渡 辺 和 則
常 任 理 事	五 十 嵐 清
理 事	木 村 誠 次
理 事	松 葉 幸 男
理 事	吉 崎 一 衛
理 事	渡 邊 了 好
理 事	小 町 邦 明
理 事	仲 摩 徹 彌
理 事	千 葉 秀 悦
監 事	溝 田 泰 夫
監 事	根 本 義 尚

(3) 評議員

氏 名	
木 村 誠 次	小 町 邦 明
松 葉 幸 男	齊 藤 定 市
渡 辺 和 則	七 五 三 和 男
五 十 嵐 清	廣 田 克 己
江 藤 茂 博	吉 崎 一 衛
神 河 秀 春	小 出 秀 文
島 田 達 彦	渋 澤 健
菅 原 淳 子	千 葉 秀 悦
高 柳 幸 雄	仲 摩 徹 彌
舘 野 宏	野 島 透
渡 邊 了 好	野 田 恒 雄
大 地 武 雄	水 戸 英 則

(注)平成 25 年 9 月 1 日現在

(4) 大学・両附属高等学校の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
学 長	渡 辺 和 則
副学長	吉 崎 一 衛
副学長	山 崎 正 伸
大学院文学研究科長	江 藤 茂 博
大学院国際政治経済学研究科長	菅 原 淳 子
文学部長	江 藤 茂 博
国際政治経済学部長	菅 原 淳 子
附属図書館長	谷 口 貢
国際交流センター長	武 永 尚 子
情報センター長	森 野 崇
教職支援センター長	大 柳 勇 治
キャリアセンター長	田 端 克 至
東アジア学術総合研究所長	高 山 節 也
学務局長	山 崎 正 伸
役 職	氏 名
二松学舎大学附属高等学校	
校 長	松 葉 幸 男
教 頭	真 瀬 垣 成 隆
二松学舎大学附属柏高等学校	
校 長	木 村 誠 次
副校長	長 谷 川 茂 樹
教 頭	島 田 達 彦
二松学舎大学附属柏中学校	
校 長	木 村 誠 次
副校長	長 谷 川 茂 樹
教 頭	七 五 三 和 男

(注)平成 25 年 5 月 1 日現在

(5) 事務組織の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
事務局長	小 町 邦 明
学務局次長	神 河 秀 春
総務・人事部長	菅 原 義 博
企画・財務部長	野 田 恒 雄
教学事務部長	神 河 秀 春
附属図書館事務部長	高 柳 幸 雄
キャリアセンター事務部長	高 林 由 美 子
附属高等学校	
事務長	横 谷 孝 子
附属柏中学・高等学校	
事務長	大 淵 俊 明

(注)平成 25 年 5 月 1 日現在

6. 最近の入学数、在籍者数、納付金、教職員数の状況

(1) 入学数

(単位:人)

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
大 学	大学院	33	30	22	18	14
	学部	765	807	707	709	711
附属高等学校		267	241	201	253	240
附属柏高等学校		250	208	231	258	308
附属柏中学校		—	—	78	46	64
計		1, 315	1, 286	1, 239	1, 284	1, 337

(2) 在籍者数

(単位:人)

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
大 学	大学院	94	83	74	55	40
	学部	2, 971	3, 017	3, 023	2, 991	2, 949
附属高等学校		780	743	695	686	682
附属柏高等学校		698	710	676	680	790
附属柏中学校		—	—	78	123	185
計		4, 543	4, 553	4, 546	4, 535	4, 646

(3) 1人当り学生生徒等納付金(平成 25 年度)

(単位:千円)

			入学金	授業料	施設費等	計
大 学	大学院	前期・修士	250	650	100	1, 000
		後期・博士	250	650	70	970
	学部	300	730	200	1, 230	
附属高等学校			200	336	186	722
附属柏高等学校			150	288	318	756
附属柏中学校			200	348	330	878

(4) 本務教職員数

(単位:人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
大学教員	76	74	69	69	71
高等学校教員	73	74	74	77	75
中学校教員	—	—	8	9	11
事務職員	83	81	76	79	84
計	232	229	227	234	241

(注)各年度5月1日現在

教職員数は、①学生数に対応する基本的な教職員数の維持、②大学院の教育・研究のための適正人員の確保、③教育・研究支援体制の充実を視野に入れた適正人員の確保、④専任職員と補助職員の業務内容などの雇用制度等を基に決定している。

II. 事業の概要

1. 法人(理事会・評議員会など法人事項に係る管理運営)

(1)長期ビジョン「N'2020 Plan」による改革の推進

二松学舎創立135周年(平成24年10月)を機に長期ビジョン「N'2020 Plan」を策定した。平成25年度より、これに基づく「アクションプラン」に則って、大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を実行する。

■内容

○基本フレームワークと「二松学舎憲章」

建学の精神を確認し、その現代的解釈から大学院・大学・高等学校・中学校それぞれのビジョンを定めた。また、全教職員の目標達成に向けた行動規範として「二松学舎憲章」を制定した。

○2020年における教育の方向性と充実策

教育の基礎を建学の精神におき、大学では「国語力」を強化、高等学校・中学校では『論語』に基づく道徳教育を行い、愛校心を育み、教育に対する多様なニーズに対応し、国際化、就業力強化、地域連携等に対応する教育を行うことを盛り込んだ。

○包括的學生生徒支援

學生生徒の立場に立った総合的な支援策を策定し実施する。

○キャンパス整備

九段地区では施設・設備の充実、柏キャンパスではその活用方法についての構想を示した。

○財政、人事・評価制度、組織、広報体制

各学校のビジョン実現のための財政、教職員人材育成、評価制度、組織、広報体制等についての在り方を示した。

「N'2020 Plan」の実現に向けて、5ヵ年行動計画である「アクションプラン」を定め、具体的な目標とスケジュールを設定し、その進捗を管理していく。

「アクションプラン」は、学校法人全体の計画をとりまとめた「全学アクションプラン」と具体的な課題を担当部署単位で整理した「課別アクションプラン」の二つから成っており、今後、各検討課題の進捗に応じて毎年度内容を見直していく。「全学アクションプラン」は、学校法人全体の課題を六つの大項目(①建学の精神と二松学舎憲章、②大学・高校・中学の教育改革(共通課題)、③二松学舎大学・大学院の教育改革、④附属高等学校の教育改革、⑤附属柏中学校・高等学校の教育改革、⑥財務・人材育成・評価・組織・広報・その他)に分類整理し、各課題に担当理事・担当部署・関係委員会等を割り当て、責任を明確にして取り組む。本学公式ホームページおよび学内グループウェアに公開し、全学を挙げて目標の達成を目指す。

(2)大学新校舎の建設

大学教育の質の向上を図るため、九段南2丁目に大学新校舎の建設を開始した。新校舎は地上9階建て、大教室4室、中教室4室、ラウンジ、ラーニングコモンズ等が設置され、平成26年12月に竣工予定である。

(3) 東日本大震災被災学生への支援等

大学では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災学生に対し、授業料等の減免措置を引き続き実施した。また、教育研究振興資金募金のうち全学的に被災学生支援のための募金活動を行った。

本学では、これまで学生・生徒が安全で快適な環境で学習できるようにするため、全ての校舎等について、耐震化のための改修や建て替えを順次実施してきており、当年度は大学柏キャンパスおよび附属高校の校舎(照明器具等非構造部材)の耐震補修工事を実施した。

(4) イベント

①『『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA -』(11月9日)

会場:九段校舎中洲記念講堂 参加者:400人

『論語』入門 文学部教授 牧角悦子

「論語と中国古典」中国文学者 守屋洋

武者小路実篤と『論語』 文学部教授 瀧田浩

素読実践 名誉教授 石川忠久

②大学資料展示室企画展等

■九段キャンパス

「三島中洲と近代 其一」(4月22日～5月25日)

「唄い継がれる詩 水木かおるの世界」(6月28日～7月26日)

「近現代作家の筆跡」(9月20日～10月18日)

「論語と注釈書」(11月8日～12月6日)

「和本へのいざない-奈良絵本『保元物語』『平治物語』を中心に-」(2月3日～2月28日)

○講演会(9月28日)

「直筆原稿を読む愉しみ-横溝正史を中心に」文学部教授 山口直孝

九段校舎1号館201教室

■柏キャンパス

平成25年度柏市内大学図書館合同企画

○資料展(10月15日～11月9日)

「論語-現代に生きる孔子と門人の言葉-」

柏校舎図書館3階法人資料室

○講演会(10月26日)

「孔子の教学が目ざしたもの」文学部教授 牧角悦子

柏校舎1号館205教室

○柏市内大学図書館見学バスツアー(11月9日)

柏市立図書館、日本橋学館大学図書館、二松学舎大学図書館、麗澤大学図書館、東京大学図書館

○知的書評合戦 ビブリオバトル(11月9日)

日本橋学館大学図書館2階 こもれびホール

③公開講座

■柏キャンパス

○生涯学習講座(5月8日～12月13日)

「アジア家族法概観」「名詩鑑賞」「漢文訓読講座(前・後)」「シルクロードの歴史と文化を学ぶ」「万葉の謎」「書画の見方・読み方・楽しみ方」「日本芸能論-謡曲(能)狂言をめぐる文学の展開-」「ハングルで楽しむ韓国 パートII」「書作歳時記」10講座 全10回

■九段キャンパス

学んで歩こう江戸(TOKYO)の街 ～体験ツアー付き～

- ・国際政治経済関係講座(3月5日～7日)
- ・文学関係講座(3月12日～14日)

2. 大学(学部・大学院)

(1) 施設・設備の整備

① 九段キャンパスの整備

中洲記念講堂の照明機器およびプロジェクター設備の改修、図書館学習支援用 PC の設置、大学情報ネットワークの基幹サーバーおよび機器のリプレース、通信回線の増速化を実施した。

大学の九段集約計画の仕上げとして、昨年度に取得した大学用地(千代田区九段南)に新校舎の建設を開始した。

② 柏キャンパスの整備

柏キャンパスでは、校舎前駐車場の照明および外構フェンスの増設、防犯設備の整備のほか、学生食堂厨房機器の一部交換などを実施した。また、大学機能の九段集約に伴い使用されなくなる柏校舎のパソコン教室等の機器備品類を整理し、維持管理費の節減を図った。

③ 教育研究用機器備品の整備等

パワーポイントや DVD などの映像を使用する授業の増加に対応するため大型ディスプレイを増設し、教室用マイク、放送設備の改修、書道教室の畳の交換などを実施した。

(2) 教育・研究の推進

① 東アジア学術総合研究所 日本漢文教育研究推進室

平成 16 年度に採択された 21 世紀 COE プログラムは平成 21 年 3 月に 5 年間の研究支援期間の後、東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室が引き続き COE の事業を推進しており、これまで、漢文文献資料の調査・収集とデータベース化、情報公開、国際シンポジウムや海外研究者の招聘による講演会・公開講座・講習会の開催など、広範で活発な研究教育活動を行い、人材育成にも力を注いでいる。また、海外での日本漢文講座を、エドヴェシュ・ロラード大学(ハンガリー・9月16日～20日)、カ・フオスカリ大学(イタリア・4月10日～6月26日、9月25日～11月20日)、チュラローンコーン大学(タイ・2月3日～7日)、リール大学(フランス・2月24日～28日)、ケンブリッジ大学(イギリス・3月3日～7日)など、ヨーロッパ、アジア諸国で展開し、インターネットによる講座も行っている。

< 公開講座 >

特別講座

「江戸期の『論語』— 亀井南冥『論語語由』読解演習—」木曜 前期 4 回・後期 6 回

演習講座

「漢籍書誌学」水曜 前期 15 回・後期 15 回

「古文書解読講座」火曜 前期 15 回・後期 15 回

「『中世随筆』の研究」水曜 前期 15 回・後期 15 回

「『近世随筆』の研究」火曜 前期 15 回・後期 15 回

< 海外派遣講座 >

「訓読授業(漢文)」(11月25日～29日)

会場:カ・フオスカリ大学(イタリア) 参加者:53人

講演「日本人と真名、仮名—漢字漢文文化圏のなかの日本—」(2月6日)

会場:タイ国立チュラローンコーン大学(タイ) 参加者:45人

< シンポジウム >

日本漢文教育研究推進室・清華大学(台湾)共催国際シンポジウム

「19世紀東アジアの思想文学と漢学」(2月24日)

会場:清華大学(台湾・新竹市)

< 刊行物 >

「雙松通訊」第 18 号、第 19 号

「日本漢文学研究」第 9 号

②教員免許状更新講習の実施

教育職員免許法の改正に基づき、平成 21 年度より教員免許更新制度が導入された。これに伴い、本学卒業生教員をはじめ多くの教員を対象に免許状更新講習を開設し、本年度は 8 月 16 日～21 日の日程で、教員として必要な最新の知識技能の提供や生徒理解に基づく生徒支援と生徒指導、現代文・古典・書道の教材や指導法などを主な内容として実施した。

③海外協定校への相互訪問等

協定校との関係をより堅固なものとするため、教職員の定期的な相互派遣を行っている。本年度は中国・北京大学歴史学系から包茂紅教授が 2 月 26 日～3 月 3 日の日程で本学に来訪され、講演会や教員交流が行われた。

④入学前教育・初年次教育の実施

新入生のモチベーションを高め、教育効果をより確かなものとするため、文学部・国際政治経済学部両学部においてAO入試・推薦入試の合格者に対し「入学前教育」を、入学後の新入生に対し学部ごとの「初年次教育」の実施や講演会などを開催した。

国際政治経済学部では入学時のプレースメント・テスト、英語習熟度クラス分けテストを実施し、両学部ともに、出口のレベルアップを目指すべく、初年次から「キャリア教育」の授業を開講し、正課「キャリア教育」と「就職支援講座」との連携を強化した。

⑤シンポジウム・講演会・展示会等の開催

本年度も国文学などの各種シンポジウムを開催し、本学の教育研究成果を学外へ広くアピールすると共に学内の活性化を図っている。大学資料展示室では二松学舎関係者の軸・書簡や近現代作家の初版本・草稿類など文学界にとって貴重な資料を収集し、年間を通して各種企画展を開催している。

■ミャンマー連邦共和国商業大臣による講演会(6月24日)

「ミャンマー国内の経済状況や今後の政策等について」 商業大臣 ウィン・ミン

会場:九段校舎中洲記念講堂

■平成 25 年度柏市教職員国語教育研修講座

場所:柏校舎 2 号館 2201 教室(7月30日)

「物語の楽しさー『雨月物語』の世界ー」 文学部特別招聘教授 稲田篤信

参加者:柏市立小・中学校教員 170 人

■二松学舎大学教育研究大会(10月27日)

会場:九段校舎1号館中洲記念講堂 参加者:175 人

講演:「論語の表現」 名誉教授 佐藤保

分科会:「小学校 国語」、「中学校 国語」、「高等学校 国語」

■二松学舎大学学術文化講演会(8月24日)

会場:倉敷公民館(岡山県倉敷市) 参加者:81 人

「観光資源としての横溝正史ミステリー」 文学部教授 江藤茂博

ゲストスピーカー 奈良県立大学地域創造学部教授 遠藤英樹

明治初期の「漢文」と山田方谷・三島中洲ー「野崎武左衛門伝」を材料としてー
文学部教授 牧角悦子

■文学部シンポジウム(11月30日)

「東アジアにおける漢学ー17世紀の東アジア社会と漢学の諸問題ー」

会場:九段校舎1号館 201 教室 参加者:70 人

■東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト

○シンポジウム

「表象される東アジアの学芸文化ー16世紀以前、『論語』『文選』を中心としてー」(12月1日)

会場:九段校舎 1 号館 202 教室 参加者:34 人

○ワークショップ

「源平の時代を視る－二松学舎大学附属図書館所蔵の奈良絵本『保元物語』『平治物語』を中心に－」(2月22日)

会場:九段校舎1号館201教室 参加者:106人

戦後日本における「自由」主義－反共・国際化・市場至上主義－(3月15日)

会場:九段校舎1号館802教室 参加者:15人

■全国漢詩コンクールの開催(大学生・高校生対象)応募総数:592件

生徒 作詩部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作5件 入選5件)

学生 作詩部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作5件 入選5件)

生徒 鑑賞文部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作5件 入選6件)

団体奨励賞(2校)

■ホームカミングデー(大学・九段校舎 11月2日)

懇親会 参加者:161人、卒業生作品展(11月2日～3日)

■FD講演会(3月26日)

「大学改革の時代において大学教員が取り組むべき課題について－質保証に対する主体をいかに發揮するか－」大学基準協会事務局長兼大学評価・研究部長 工藤潤

会場:九段校舎1号館702教室 対象:大学専任教員及び事務職員

⑥図書館の充実等

図書館利用者が図書館の資料を参照しながらレポートや論文を作成できるよう、九段校舎図書館に学習支援用のPCおよびプリンターを設置した。本学図書館では、オンラインデータベースや電子ジャーナル、CD/DVD-ROMのほかライブラリーサーバーの導入により、九段・柏の両キャンパスからデジタルデータの利用が可能となるなど利便性の高い情報利用環境を整備している。また、図書館では所蔵貴重資料のマイクロフィルム化及びデジタル化、紀要・学術雑誌のデータベース化、法人資料のデジタル化を年次計画で実施しており、これまで作成したデータのうち、『二十一代集』『土佐日記』などの和本や『周易本義通釋』『融堂書解』などの漢籍について、デジタル資料を公開した。

⑦大学の授業に関するアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として、授業における、学生の学習成果を教員が確認し授業の改善に役立てるため、学習の動機付け・習慣付け・学習意欲の向上および活用を探る一助とするため、「学生による授業アンケート」を実施した。学生の授業に対する意識調査・分析により、大学全体の今後の教育改革に役立てる。

⑧学術研究支援等の充実

本学卒業生教員の教育実践支援、教職志望の学生への更なる支援と併せて教育実践に関する総合的な研究調査及び研修等を行うことで広く教育界に貢献することを目的に「教職支援センター」を設置している。同センターでは、本学の卒業教員とのネットワーク強化、求人情報の提供・紹介、論作文添削・模擬面接・個別進路相談、教員採用試験合格講座などにより、教員志望学生の支援を実施している。また、東アジア学術総合研究所では、ワークショップの開催など共同研究プロジェクトの推進および研究成果報告書の刊行を支援している。

<刊行物>

『東京文学散歩』二松学舎大学文学部

「二松詩文」第36巻第4号 二松詩文会

「二松学舎大学附属図書館 季報」第86号～第88号 二松学舎大学附属図書館

「三島中洲研究」Vol.6 二松学舎大学中洲研究会

「国政政経」第19号 二松学舎大学国際政経学会

「人文論叢」第91輯 二松学舎大学人文学会

「教職支援センターだより」第7号 二松学舎大学教職支援センター

「二松学舎大学国際政経論集」第20号 二松学舎大学国際政治経済学部

「二松學舎大学論集」第 57 号 二松学舎大学文学部
「二松」第 28 集 二松學舎大学大学院文学研究科
「三島中洲と近代—其二—」 二松学舎大学附属図書館
「二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊」第 44 集 東アジア学術総合研究所
「陽明学」第 24 号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究室
「国際交流」第 32 号・第 33 号 二松学舎大学国際交流センター
「二松學舎新聞」第 59 号～第 61 号 学校法人二松学舎
「水木かおる記念文庫だより」第 5 号 二松学舎大学附属図書館(柏)
「學」第 35 号～第 37 号 学校法人二松学舎 等

(3) 学生支援

① 学生ポータルサービス・ポートフォリオの構築

学内はもちろん、学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設した。また、学生が自らの目標の達成度を確認し意欲的に学習に取り組むことができるよう、ポートフォリオシステムを構築した。

② 学金制度の拡充

学生生徒の就学意欲の維持、退学者の減少や学生生徒募集のためにも、奨学金制度の拡充が重要であり、学校別に奨学金制度を整理し、給付および貸与奨学金制度を設けている。また、奨学基金として受け入れた寄付金は、第 3 号基本金に組み入れ毎年度増額することとしている。本年度は、東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災特別奨学生、被災した入学者に対する学納金の減免、経済的困窮学生に対する奨学金の給付を実施した。

③ 就職支援等

キャリアセンターでは、4 年間のキャリア教育プログラムを構築し、1 年次から正課授業との連携およびキャリアカウンセラーによる相談の実施により学生のサポート・フォローを行っている。学生の就職活動を支援するため、就活必携冊子「就職ガイド」の作成配布や自己発見（職業適性）検査をはじめ、公務員試験対策講座の開講、学内合同企業説明会、企業研究セミナーや業界セミナーの開催、このほか「キャリアデザイン講座」「3 日間の社長弟子入りプロジェクト」「サービス介助士講座」や図書館とタイアップした情報収集講座などを実施した。

教職支援センターでは、国語科教員養成特別授業や採用試験対策の強化、教育実習生に対して現職教員による特別講演会の実施など、教員採用試験合格者の増員を図るための各種事業を実施した。また、OB 教員の教育実践等の支援や教育情報等の資料収集および広報誌「教育支援センターだより」の発行などを行った。

④ 国際交流

国際交流センターでは、短期海外語学研修の実施（中国語・歴史文化研修（北京大学・歴史学系）8 月 9 日～28 日・オーストラリア語学研修（クイーンズランド大学・ICTE-UQ）8 月 17 日～9 月 8 日）、海外協定校への派遣留学生および海外協定校からの交換留学生に対する就学支援、その他国際交流イベント（研修旅行、留学生スピーチコンテスト等）を実施した。

本年 10 月 12 日に本学とミャンマー連邦共和国商業省との間で交流覚書を締結し、また、3 月 27 日には本学大学院文学研究科と浙江工商大学日本語言文化学院との間で、学生交流プログラムに関する合意書を締結した。

⑤ 地区別父母懇談会

大学の現況、履修の状況、学生生活の状況、就職活動の支援等についての説明や個別相談を行っている。平成 25 年度は、北海道札幌市、沖縄県那覇市、宮城県仙台市、鳥取県米子市、東京都千代田区、茨城県水戸市、富山県富山市、香川県高松市、兵庫県神戸市（日程順）で開催した。

(4) 学生募集対策

少子化が進む中で、文学部・国際政治経済学部とも学生募集広報活動を見直し、多方面から入学者選抜実施方法（入試種別・科目・日程等）を検討し、地方会場および関東地区会場で大学説明会や入学

試験を実施した。また、関東地区の志願者獲得の精度を上げるべく、東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城の各地区別に学生募集特別委員を配置し学生募集対策の強化を図っている。

本学を紹介する動画媒体を従来のビデオ・DVD に替え、新たに大学の概要・学部の各専攻・キャリアサポート・教職支援等の映像を各2～3分程度にまとめ、公式ホームページから視聴可能とした。引き続き、OB 教員との連携や地方からの志願者確保、オープンキャンパス、特待生制度・奨学金制度等の充実など学生募集力の強化と対策を行う。

3. 附属高等学校

(1) 中・長期将来計画の策定と段階的实施

少子化を背景に高等学校を巡る環境が大きく変化しており、生徒募集、教育目標、指導目標、進学対応等附属高等学校を抜本的に見直すため、中・長期計画により改革を推進している。大学の九段集約に係る高大連携の在り方について検討を開始し、引き続き進路指導の充実及び進学実績の引き上げ、クラブ活動の活性化、生活指導の重視等を各種改善策に取り組んでいる。

(2) 体育コースの設置

野球部等、体育系生徒向けのカリキュラムとして、「体育コース」を本年度から導入した。

(3) 学習環境の整備

図書室蔵書の購入、柏キャンパスにおける集中体育授業を実施するため柏グラウンドの改修整備(人工芝サッカー場兼陸上競技場および野球サブグラウンド)を行ったほか、経年劣化に伴う校舎外壁の塗装・補修、廊下・階段部への腰壁ボード設置、教室等扉の改修工事を実施した。

(4) 生徒募集対策

ホームページでの動画による学校紹介やマンガ・イラストによる「二松生物語」など効果的な広報活動を行い、志願者増加および定着化のため中学・塾等訪問スタッフの配置など緻密な募集対策を行った。生徒・保護者対象説明会や個別相談会のほか、中学校教員・塾対象の学校説明会をそれぞれ実施した。

(5) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアを行っている。

(6) チューター制の導入

進路指導の充実発展と生徒の進路意識の向上を目的に、チューター制(課外活動講師制)を導入した。他大学の学生をチューターに迎え、週2回、放課後に受験勉強や大学生活など生徒の相談に応じている。

(7) 学校評価委員会の開催

「学校評価」及び同校の経営・運営に資するため、有識者及び近隣地域住民より附属高等学校に対する意見を聴取し、学校運営協議会を開催した。

(8) 校外学習等

- ・オリエンテーション:千葉県館山市(4月18日～20日)1年生
- ・勉強合宿:長野県長野市(7月22日～25日)2年生、(8月19日～22日)1年生
- ・修学旅行:沖縄県(10月29日～11月1日)2年生
- ・雪国体験(スキー教室):長野県上田市菅平高原(1月29日～31日)1年生
- ・英語合宿:新潟県南魚沼郡湯沢町(3月27日～4月3日)2年生
- ・父母の会研修会:江戸城めぐり(10月19日)、アロマを使ったセルフケア講座(2月16日)

(9) 外部講師による補助講習会(「まなびや」)の実施

進学実績の向上を図るため、予備校講師等による補助講習を実施した。

< 刊行物 >

- 「二松だより」第102号～第104号 附属高等学校二松だより編集委員会
- 『文芸二松』第29号 附属高等学校文芸二松編集委員会

4. 附属柏中学校・高等学校

(1) 中・長期計画の策定と段階的实施

大学の九段集約に係る高大連携の在り方について検討を開始し、引き続き教科・進路・生徒の各指導計画、施設設備の充実、臨時定員増や入学定員の見直し、マーケティングの実施やブランドイメージの構築など中・長期計画を策定するためのプロジェクトチームにより具体案を作成し、段階的に実施している。

(2) カリキュラムの充実

本学の建学の理念のもと、平成23年4月柏キャンパスに開校した附属柏中学校は当年度開設3年目(完成年度)を迎えた。附属柏高等学校との中・高を通じた教育の充実と人材の養成するため、附属柏高校では、新カリキュラムにより教育体系の更なる充実を図っている。また、一人ひとりの学力を確実なものとするため補習や特別講習授業を実施している。さらに受験に向けて、大手予備校のひとつである駿台予備校と連携し、様々な受験情報を提供し、模試・衛星授業などを通してより実践的な受験対策を行っている。

(3) 教育・学習環境の整備

南校舎前の外溝整備工事、東校舎女子トイレの改修整備(洋式・ウォシュレット化)を実施したほか、附属柏高等学校では、教員室印刷機の入れ替え、生徒数の臨時定員増に備え机・椅子・ロッカーの増設を、附属柏中学校では、生徒用机・椅子・ロッカー等の備品を年次計画により購入した。

(4) 生徒募集対策

受験生向けの学校案内パンフレットのリニューアルやホームページでの動画による学校紹介、保護者・受験生対象の学校見学会のほか、授業公開や体験授業を行っている。入試広報部を中心に、広報活動、中学・塾等訪問スタッフの配置など募集対策を実施した。

(5) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアを行っている。

(6) 国際交流

附属柏高校1年生と二松学舎大学の留学生(韓国、中国、台湾)との交歓交流会を開催(11月21日)し、留学生の母国紹介や意見交換などの異文化交流を行った。

(7) 授業評価アンケートの実施

自己点検・評価活動の一環であり学校を取り巻く環境の変化に対する組織的な取り組みとして、授業改善と学校全体の教育力向上に資するため、生徒による授業評価アンケートを実施した。

(8) 校外学習等

- ・オリエンテーション:千葉県九十九里(4月18日～20日)高校1年生
- ・歌舞伎教室(6月22日)高校2年生
- ・芸術鑑賞(11月9日)高校1年生
- ・修学旅行:台湾(11月6日～9日)高校2年生
- ・勉強合宿(サマーセミナー):東京都中央区(7月31日～8月3日)高校2年生
- ・森の教室:南会津町たかつえ高原(5月16日～18日)中学1年生
- ・スキースクール(2月12日～15日)中学1年生
- ・研修旅行(2月13日～15日)中学2・3年生

< 刊行物 >

「双松」第41号 附属柏高等学校双松編集委員会

「修己治人」第5号 附属柏中学校

Ⅲ. 財務の概要

1. 施設設備の整備

大学では、大学九段集約に伴い施設の拡充をはかるため九段南 2 丁目に新校舎の建設を開始し、既存施設設備の整備として、大学九段校舎では中洲記念講堂の照明・プロジェクター設備の改修、教室の机・椅子の入れ替え、学生食堂・レストランのテーブル・椅子の入れ替えを行ったほか、事務システムのリプレイスおよび電子会議システムを導入し事務の効率化を図った。大学柏校舎および附属高等学校では、教室等の照明設備や電気設備等(非構造物)の耐震化工事を実施した。附属高等学校では、柏グラウンドの改修整備(人工芝)、野球場フェンスの増設を、附属柏中学・高等学校では、東校舎女子トイレの改修整備を実施した。

2. 財務改革の推進

(1) 奨学金制度の充実と第3号基本金の増額

大学・附属高校・附属柏高校・附属柏中学校別に奨学金制度を整理し、さらなる奨学金制度の充実のため、当年度奨学基金として受け入れた寄付金は第3号基本金に組み入れ、奨学基金を毎年度増額することとしている。

(2) 恒常的な募金活動

本法人では二松学舎教育研究振興資金の募金活動を恒常的に行っている。平成25年度には総額約4,500万円超のご寄付をいただき、前年度からの繰越金と合わせて東日本大震災の被災学生および経済的困窮学生支援のための支援金(授業料等の減免)の一部とし、また、奨学金の基金として第3号基本金に組み入れたほか、残りの資金は平成26年度に繰り越した。

(3) 事業会社の事業展開

本法人出資の事業会社である二松学舎サービス㈱は順調に事業を展開しており、本法人の業務の効率化や経費削減等に寄与している。当年度、同社からは2,300万円の寄付があった。

(4) 格付けの取得

格付機関(㈱格付投資情報センター(R&I社))による法人の発行体格付評価を受け、本年度も引き続き「A-」(シングルAマイナス)の格付けを維持した。

(5) 資金の効率的運用

資金の運用に当たっては、運用リスクを適切に管理し慎重な運用を行い、運用収入を確保した。

3. 資金収支計算書(別紙1)

4. 消費収支計算書(別紙2)

5. 貸借対照表(別紙3)

6. 財産目録(別紙4)

7. 主な財務比率(別紙5)

資金収支計算書

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,802,367,000	3,822,112,300	△ 19,745,300
手数料収入	119,642,000	116,658,725	2,983,275
寄付金収入	59,160,000	62,042,370	△ 2,882,370
補助金収入	845,678,000	848,737,754	△ 3,059,754
国庫補助金収入	236,014,000	237,033,000	△ 1,019,000
地方公共団体補助金収入	609,664,000	611,704,754	△ 2,040,754
資産運用収入	172,207,000	175,446,088	△ 3,239,088
資産売却収入	200,000,000	1,645,118,691	△ 1,445,118,691
事業収入	2,649,000	2,670,338	△ 21,338
雑収入	270,651,000	312,557,301	△ 41,906,301
借入金等収入	600,000	501,000,000	△ 500,400,000
前受金収入	978,887,000	1,026,586,296	△ 47,699,296
その他の収入	609,940,000	605,323,671	4,616,329
資金収入調整勘定	△ 1,202,746,000	△ 1,298,974,659	96,228,659
前年度繰越支払資金	3,737,328,000	3,737,327,612	
収入の部合計	9,596,363,000	11,556,606,487	△ 1,960,243,487
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,987,425,000	2,992,038,261	△ 4,613,261
教育研究経費支出	988,700,000	975,433,734	13,266,266
管理経費支出	390,003,000	358,899,712	31,103,288
借入金等利息支出	35,457,000	35,561,729	△ 104,729
借入金等返済支出	313,100,000	813,100,000	△ 500,000,000
施設関係支出	620,652,000	623,502,294	△ 2,850,294
設備関係支出	279,933,000	291,108,936	△ 11,175,936
資産運用支出	812,849,000	2,153,540,961	△ 1,340,691,961
その他の支出	200,511,000	188,707,453	11,803,547
資金支出調整勘定	△ 215,849,000	△ 221,325,894	5,476,894
次年度繰越支払資金	3,183,582,000	3,346,039,301	△ 162,457,301
支出の部合計	9,596,363,000	11,556,606,487	△ 1,960,243,487

消費収支計算書

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,802,367,000	3,822,112,300	△ 19,745,300
手数料	119,642,000	116,658,725	2,983,275
寄付金	60,060,000	67,629,731	△ 7,569,731
補助金	845,678,000	848,737,754	△ 3,059,754
国庫補助金	236,014,000	237,033,000	△ 1,019,000
地方公共団体補助金	609,664,000	611,704,754	△ 2,040,754
資産運用収入	172,207,000	175,446,088	△ 3,239,088
資産売却差額	187,670,000	187,670,362	△ 362
事業収入	2,649,000	2,670,338	△ 21,338
雑収入	270,651,000	312,557,301	△ 41,906,301
帰属収入合計	5,460,924,000	5,533,482,599	△ 72,558,599
基本金組入額	△ 1,049,974,000	△ 1,106,958,313	56,984,313
消費収入の部合計	4,410,950,000	4,426,524,286	△ 15,574,286
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	2,880,407,000	2,919,001,254	△ 38,594,254
教育研究経費	1,562,578,000	1,560,592,153	1,985,847
管理経費	420,167,000	389,885,915	30,281,085
借入金等利息	35,457,000	35,561,729	△ 104,729
資産処分差額	22,749,000	24,011,988	△ 1,262,988
徴収不能引当金繰入額	8,297,000	8,790,500	△ 493,500
消費支出の部合計	4,929,655,000	4,937,843,539	△ 8,188,539
当年度消費支出超過額	△ 518,705,000	△ 511,319,253	
前年度繰越消費支出超過額	△ 982,533,000	△ 982,532,750	
翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,501,238,000	△ 1,493,852,003	

貸借対照表

平成26年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	21,201,599,406	21,187,275,349	14,324,057
有形固定資産	17,479,269,695	17,176,599,526	302,670,169
土地	5,151,383,208	5,136,883,208	14,500,000
建物	9,370,139,982	9,707,177,238	△ 337,037,256
その他の有形固定資産	2,957,746,505	2,332,539,080	625,207,425
その他の固定資産	3,722,329,711	4,010,675,823	△ 288,346,112
流動資産	5,961,404,305	5,715,237,414	246,166,891
現金預金	3,346,039,301	3,737,327,612	△ 391,288,311
その他の流動資産	2,615,365,004	1,977,909,802	637,455,202
資産の部合計	27,163,003,711	26,902,512,763	260,490,948
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,511,211,467	2,889,639,173	△ 378,427,706
長期借入金	1,426,800,000	1,739,300,000	△ 312,500,000
その他の固定負債	1,084,411,467	1,150,339,173	△ 65,927,706
流動負債	1,692,184,985	1,648,905,391	43,279,594
短期借入金	313,500,000	313,100,000	400,000
その他の流動負債	1,378,684,985	1,335,805,391	42,879,594
負債の部合計	4,203,396,452	4,538,544,564	△ 335,148,112
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	23,693,868,262	22,587,084,949	1,106,783,313
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	456,591,000	456,416,000	175,000
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
基本金の部合計	24,453,459,262	23,346,500,949	1,106,958,313
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,493,852,003	△ 982,532,750	△ 511,319,253
消費収支差額の部合計	△ 1,493,852,003	△ 982,532,750	△ 511,319,253
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	27,163,003,711	26,902,512,763	260,490,948

財 産 目 録

I 資産総額		27,163,003,711 円
内 基本財産		17,487,629,582 円
運用財産		9,675,374,129 円
II 負債総額		4,203,396,452 円
III 正味財産		22,959,607,259 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	123,628.44 m ² 5,151,383,208 円
建物	56,664.82 m ² 9,370,139,982 円
構築物	301,703,609 円
図書	382,692 冊 1,997,479,569 円
教具・校具・備品	18,086 点 317,752,525 円
その他	349,170,689 円
2 運用財産	
現金預金	3,346,039,301 円
その他	6,329,334,828 円
資産総額	27,163,003,711 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	1,426,800,000 円
その他	1,084,411,467 円
2 流動負債	
短期借入金	313,500,000 円
その他	1,378,684,985 円
負債総額	4,203,396,452 円
正味財産(資産総額－負債総額)	22,959,607,259 円

主な財務比率

1. 消費収支計算表関係比率

(%)

比率	計算式	評価の目安	本学(学校法人全体)					全国平均
			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	24年度
人件費比率	人件費 帰属収入	▼	52.2	56.9	55.7	56.4	52.8	52.8
人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	▼	72.0	72.2	74.3	76.5	76.4	71.9
教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	△	29.0	29.1	28.0	27.9	28.2	31.2
管理経費比率	管理経費 帰属収入	▼	8.9	7.9	7.5	7.9	7.0	9.2
借入金等利息比率	借入金等利息 帰属収入	▼	0.9	0.8	0.9	0.8	0.6	0.3
帰属収支差額比率	帰属収入-消費支出 帰属収入	△	1.9	-1.5	0.1	6.7	10.8	4.8
消費収支比率	消費支出 消費収入	▼	120.5	110.9	116.5	133.0	111.6	107.9
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	~	72.5	78.8	75.0	73.8	69.1	73.4
寄付金比率	寄付金 帰属収入	△	1.2	1.5	1.5	1.1	1.2	2.0
補助金比率	補助金 帰属収入	△	20.0	11.9	15.7	14.6	15.3	12.6
基本金組入率	基本金組入額 帰属収入	△	18.6	8.5	14.3	29.9	20.0	11.7
減価償却費比率	減価償却額 消費支出	~	9.5	11.0	10.9	11.4	12.5	11.8

2. 貸借対照表関係比率

(%)

比率	計算式	評価の目安	本学(法人全体)					全国平均
			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	24年度
固定資産構成比率	固定資産 総資産	▼	81.6	80.7	79.1	78.8	78.1	86.7
流動資産構成比率	流動資産 総資産	△	18.4	19.3	20.9	21.2	21.9	13.3
固定負債構成比率	固定負債 総資金	▼	12.2	13.0	12.2	10.7	9.2	7.2
流動負債構成比率	流動負債 総資金	▼	5.7	6.0	5.0	6.1	6.2	5.6
自己資金構成比率	自己資金 総資金	△	82.1	81.1	82.7	83.1	84.5	87.2
内部留保資産比率	運用資産-総負債 総資産	△	20.8	19.1	21.0	19.3	20.2	26.2
運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 消費支出	△	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.9
消費収支差額構成比率	消費収支差額 総資金	△	5.1	3.3	0.8	-3.7	-5.5	-11.2
固定比率	固定資産 自己資金	▼	99.3	99.5	95.6	94.7	92.3	99.5
固定長期適合率	固定資産 自己資金+固定負債	▼	86.5	85.8	83.3	83.9	83.2	91.9
流動比率	流動資産 流動負債	△	324.9	323.9	415.0	346.6	352.3	237.1
総負債比率	総負債 総資産	▼	17.9	18.9	17.3	16.9	15.5	12.8
負債比率	総負債 自己資金	▼	21.7	23.3	20.8	20.3	18.3	14.7
前受金保有率	現金預金 前受金	△	238.6	376.0	436.5	383.0	325.9	324.0
退職給与引当預金率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金	△	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	66.5
基本金比率	基本金 基本金要組入額	△	89.7	88.1	90.6	92.1	93.5	97.1
減価償却比率	減価償却累計額 減価償却資産取得額	~	36.0	36.6	39.4	42.4	43.4	47.1

注) 「全国平均」は日本私立学校振興・共済事業団の集計による医歯系を除く500大学法人の平均を示す。

「評価の目安(「▼」低い値がよい、「△」高い値がよい、「~」どちらとも言えない)」は日本私立学校振興・共済事業団の資料による。減価償却比率は図書を除く。

監査報告書

平成26年5月22日

学校法人 二松学舎
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 二松学舎

監事 溝田 泰夫 

監事 根本 義尚 

私は、学校法人二松学舎の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人二松学舎寄附行為第11条の規定に基づいて、会計帳簿の実査等を行い、また理事会その他の会議に出席し業務の報告を聴取する等して、学校法人二松学舎の平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の業務及び財産の状況について監査を行いました。

監査の結果、私は財産目録及び計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに附属明細表）は学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠しており、学校法人二松学舎の平成26年3月31日現在の財産状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。また、学校法人二松学舎の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを確認しました。

以上